

第7 2次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・小学校)

**歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、
歴史を学ぶ意味を考え、表現する児童の育成**



八街市立八街東小学校
館崎 倫久
実践協力校 八街市立川上小学校
八街市立朝陽小学校

1. 研究主題

歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、歴史を学ぶ意味を考え、表現する児童の育成

2. 研究主題設定の理由

(1) 前年度の実践から

昨年度、八街市立川上小学校にて第6学年「明治の国づくりを進めた人々」の実践を行った。これまで私自身、ただ歴史的事象を一方的に教えるだけの授業となってしまうことに気づき、何とか授業改善を試みたいと考えていた。特に児童になぜ、歴史を学ぶかを考えさせたいと思い、「歴史的事象について今後どのように生かしていくのか、児童自身がその考えを書けるようにしたい」と願い、授業実践を行った。この単元では、西洋化が進む明治時代において、鉄道を主教材として取り扱うこととした。児童が4年生の時に八街の開墾に関わりのある西村郡司が日本の鉄道開通に関係していたことを、学習のきっかけとした。明治時代は八街村が誕生した時期と重なっており、製糸業や紡績業を学習する際に八街にも製糸場があったなど地域の歴史的事象を補完的に取り入れることを手立てとした(資料7)。結果として、身近な教材を取り入れたことにより、児童の歴史的事象への理解は、明治時代の国策と連動していることに気づくことができた。そして、単元後の児童の記述から評価したところ、歴史で学んだことを今後どのように生かしていくか考えられる児童は、12%から50%に増えた。

しかし、学習指導要領で求める「歴史を学ぶ意味」については考えさせることが十分ではなかったことが課題として挙げた。今年度、前任校での課題をふまえ、第四部会社会科研究部の協力のもと、八街市立八街東小学校および八街市立朝陽小学校においても実践を行った。各校において実践協力をいただきつつ、再度「歴史を学ぶ意味」を捉えられる児童を育成したいと考え、本研究主題を設定した(資料2)。

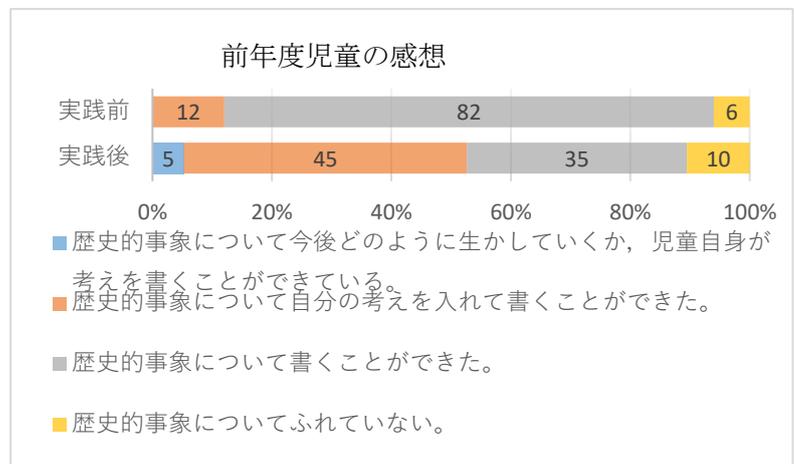
(2) 学習指導要領から

本研究主題においては、第6学年の内容イの(ア)に重点を置いたものである。各単元において歴史を学ぶ意味を考え、表現することを意識して歴史学習を行う必要がある。小学校学習指導要領解説社会編では、歴史を学ぶ意味を「過去の出来事は現代とどのような関わりをもっているかなど過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えることである。」と説明している。

実際には歴史的な事実を教えることに終始してしまい、歴史を学ぶ意味を考えさせながら、社会科の授業を行うことは難しい現状である。私は改めて、学習指導要領から歴史を学ぶ意味を考え直すこととした。本研究ではこの歴史を学ぶ意味を今日的な社会科学学習の課題として捉え、研究主題を設定した。

(3) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学学習
～自ら課題を見出し、自らの考えを実現できる児童生徒の育成を目指して～



印教研研究主題にある「生きる力」とは、自ら課題を見出し、自らの考えを実現できる力のことである。歴史学習において、よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う必要がある。そのためには、歴史的事象と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど、問題解決的な学習を通して、歴史をなぜ学ぶのか考えることが必要不可欠である。

(4) 児童の実態から

八街市は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、東西に狭く約 7.7 km、南北に長く約 16 kmで、市の中央は市街地が形成され、周囲に平坦な畑作地帯が広がり、南西部及び北部に水田地帯が点在している。また、先史以来本市域では人々の生活が営まれ、中世には白井荘に属する村々の存在が知られ、江戸時代には幕府の野馬の放牧場である佐倉七牧のうち柳沢牧と小間子牧が置かれていた。その後明治2年、明治新政府は、難民・窮民対策事業として下総の牧場であった土地の農地開拓を進め、明治3年4月には8番目の開墾地として「八街」（旧柳沢牧）への入植が始まっている。そして、明治5年11月2日、正式に「八街村」が誕生している。明治時代に誕生した八街だが、古墳などもあり歴史と関わりの深い場所である。

児童の実態として社会科を好き・どちらかといえば好きと答える児童が多い。社会科のまとめも自分たちで作ることができる児童も多い。歴史を身近に感じることができているかという質問については、2割の児童が「わからない。」「まったく感じない。」と答えている。なぜ歴史を学ぶかについて聞くと「昔の偉人を学ぶため。」「昔を知るため。」「昔の人が残してくれたことを学ぶため。」と書けてはいるものの具体性に欠ける回答が多かった。児童は歴史に対して興味や関心はもっているが、歴史を学ぶ意味についてはまだ考えきれていないことがうかがえる。

このような児童の実態から、「歴史を身近に感じ、今と昔の関連に気づかせる。」そして、「自分なら学習した歴史的な事象を今後どのように生かしていきたいか。」ということを軸として、歴史を学ぶ意味を考え表現できるようにしたいと考えた。

3. 主題について

(1) 歴史的な事象と自分たちとの関わりに気づくとは

現代社会では、多くの人が日常生活において衣食住の不自由なく、豊かな生活を送ることができている。この豊かな生活は我が国の歴史や先人たちの働きの上で成り立ったものである。児童は歴史を身近に感じながらも、自分たちの生活にどのように関わっているのかをなかなか気づけていない。

そこで、本研究では、「歴史的な事象と自分たちとの関わりに気づく」を、歴史に関わる事象〈人・もの・こと〉が自分たちの現代生活とつながり、その上に自分たちがいることに気づくことと定義する。例えば、大化の改新などに見られる政治体制の変化は、現代の政治の仕組みに繋がるものがある。または大仏造営による仏教文化は現代の文化にも繋がりがあることなどである。

(2) 歴史を学ぶ意味を考え、表現するとは

歴史を学ぶ意味とは、「歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えること」と定義する。

そのために歴史上の人物の行動や言動から今の自分と比較して、これからの自分にどのように反映させ、歴史から学んだことを実生活に生かすことができると実感してもらいたい。そして、最終的には国家・社会の形成者としての姿を期待したい。例えば、聖徳太子の行ったことから「自分も平和な国づくりを目指したい」行基の行ったことから「人々が協力することで国を良くしたい」など、授業のふり返りや単元のまとめシートの記入によって表現できることを目指していく。

4. 研究構想図

【目指す児童像】

歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、歴史を学ぶ意味を考え、表現できる児童

【研究の手立て】

- ・地域の歴史的事象を補完的に取り入れる。
- ・地域素材の開発を行う。
- ・毎時間の終末で自分たちとの生活の関わりを考えさせる。
- ・単元の最後で『まとめシート』を活用する。
- ・学習協力者の活用を行う。

【研究仮説】

国の歴史的事象を補完するための地域教材を取り入れ、まとめあげる工夫をすれば、児童は歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができるだろう。



過去と現在を繋ぐには、地域素材を使ったり、まとめを児童がつくったりすればできるかもしれない。(まとめの話型)
どのように生かすか考えさせるには、今を生きる人の思いや考えが伝わる資料の提示を行ったり、単元の終わりの時、シートに学習のまとめを通して児童に考えを書かせたりすればどうだろうか。

【学習指導要領を基づいた「歴史を学ぶ意味」の定義】

- ① 過去の出来事と今日の自分たちの生活との関連の考察をすること
- ② 歴史から学んだことを今後どのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えること

【今年度の実践】

第6学年「天皇中心の国づくり」

前任校の研究の課題を生かすこととした。本校の社会科学学習にも同様の課題があると捉えた。特に「歴史を学ぶ意味」については、事前アンケートの結果からも、どのように生かすのか構想することについては具体性に欠けていた。

【前年度の実践】

第6学年「明治の国づくりを進めた人々」

- ・地域の歴史的事象を補完的に取り入れる。
- ・地域素材の開発
- ・まとめあげる段階で自分たちとの生活の関わりを考える。

(資料5～8)

【成果】

- ・歴史的事象の理解が高まり、自分達との関わりを気づくことができた。

【課題】

- ・学習指導要領上の歴史を学ぶ意味を考えさせるところまで到達できなかった。

5. 研究の目標

本研究は、歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、歴史を学ぶ意味を考え、表現する児童を育成する手だてとして、国の歴史的事象を補完するための地域教材を取り入れたり、まとめあげる工夫をしたりすることが有効であることを明らかにする。

6. 研究の仮説と手立て

【仮説】

国の歴史的事象を補完するための地域教材を取り入れ、まとめあげる工夫をすれば、児童は歴史的事象と自分たちとの関わりに気づき、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができるだろう。

上記の仮説を検証するため以下手立て5つを講じた。

手だて① 地域の歴史的事象を補完的に取り入れる。

主な歴史的事象と現在の自分達の生活との関わりに気づくことで、児童は歴史上の主な事象や自分たちの現在の生活に関わっていることについて理解することが考えられる。しかし、それだけでは、自分たちの生活との関わりを深く結び付けられない。そこで、歴史上の主な事象と自分たちの生活をつなぐ架け橋のような役割が必要であり、その役割を果たすのが「地域の歴史的事象」であると考えた。地域の歴史的事象は現在児童が生活している千葉県や八街市のことを扱うので、歴史的事象がより身近になり自分たちの現在の生活との関わりを考えられることが期待できる。 **（資料1）**

歴史上の主な事象と地域の歴史事象の関わりを次の表にまとめた。

時数	歴史上の主な事象	地域の歴史的事象	自分たちの生活との関わり
1	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子が遣隋使を送り文化や学問を取入れた。 ・冠位十二階 ・十七条の憲法 ・法隆寺の建立 		<ul style="list-style-type: none"> ・政治 ・国際交流 ・仏教
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新（元号） ・力のある豪族を貴族にし、地方の力のある豪族を役人にした。 ・唐から帰国した僧侶と留学生らと天皇中心の国作りをすすめた。 ・戸籍を作った。 ・藤原京を作った 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方を国別に分けた。 ・様々な都道府県が現在と違う呼び名であった。 ・千葉県は最初下総・上総に分けられ、のちに安房の3つに分けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸籍 ・都 ・国別（都道府県等） ・元号（日本で初めて元号が定められ現在の令和まで248に上る。）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・律令を作り、人々は税（租・調・庸）を収めることになった。 ・国と地方は政治によって治められた。 ・納めた物の管理のため木簡が作られた。 ・律令印といった印鑑を使うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八街の滝台遺跡から山邊郡印が出土した。 ・現在の八街の一部が山邊に属していた。 ・郡印の出土から律令の影響を受けていたことがわかる。 ・地方は国にむけて、税を納めており国が地方を動かしていることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木簡は現在の手紙や書類にあたる。 ・政治の組織ができた。 ・地方でも政治が行われるようになった。 ・印鑑は現在も使われている。 ・荷札
4	<ul style="list-style-type: none"> ・平城京が栄える ・地方の困窮 ・病気・全国各地で災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県にも国分寺が建立されていた。 ・千葉県に建立されたのは、上総 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教に由来する文化（初詣、節分、お盆）や言葉（挨拶、我慢）など我々の生活に多数

	<ul style="list-style-type: none"> や反乱→社会の不安が広がった。 ・仏教の力で社会の不安をしずめようとした。 ・国ごとに国分寺を建てることを命じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国分寺・安房国分寺・下総国分寺の3つになる。 ・都の生活を支えていた地方の生活がより厳しくなる。 	根付いている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・聖武天皇の詔 ・東大寺・大仏 ・渡来人の力を借りた。 ・行基 ・開眼式 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本寺は聖武天皇の勅詔と光明皇后の言葉を受けた行基によって、725年開山。 ・上総の国出身の丈部大麻呂が金を献上する手助けをした。 ・釈迦如来像(飛鳥・奈良) ・市原にも奈良の大仏がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺の方の話を参考に参拝する人の願いは、現在も変わらないものがある。 ・大仏も現在に残っているものがあり奈良の大仏や修学旅行で見学する鎌倉の大仏、東京湾観音など、近年作られた大仏もある。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使を送った。 ・大陸の文化を取り入れた。 ・正倉院が作られた。 ・僧は税が免除されていた。多くの人々が僧になり仏教界は乱れた。 ・正しい仏教を伝える必要性があったため鑑真が呼ばれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡という、奈良時代に中国から伝えられた楽器の一つが鈔子に伝わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・唐招提寺の方の話を参考に鑑真の来た理由を知る。 ・大陸からやってきた宝物は今でも大切に保管されている。 ・今でも漢方薬がある。

手だて② 地域素材の開発を行う

手だて①であげた「地域の歴史事象」を考えた際に、その事象が事実であることが重要である。確認をする上で八街市の郷土資料館を活用した。こちらについては市内の各学校の依頼に応じて出前授業を行っている。今回の学習においても連携を図ることで、事実の確認や、千葉県や八街市の歴史の知らなかったこと、資料の提供、地域の歴史に詳しい人材の紹介が受けられる。また、そうすることで、児童にとって新たに千葉県や八街市のことを知ることができ地域への関心がより深まると考えた。(資料3)

手だて③ 毎時間の終末で自分たちとの生活の関わりを考えさせる

授業で歴史上の知識を教えるだけでは、児童が歴史的な事象と自分たちの生活との関わりに気づくまでには至らない。毎時間の授業のまとめで学んだことを、まとめの話型を使っての再構成することで関わりに気づくことができると考えた。まとめの話型とは、「国では」「地方では」「今では～に繋がっている。」3つの言葉を用いてまとめさせるようにしていく。初めは、授業者と共にまとめの学び方を知り、単元が進むに連れて段階を追って自分自身でまとめられるようにしていく。

手だて④ 単元の最後で『まとめシート』を活用する

単元の最後に、児童がこれまでの授業で得た知識や情報をまとめる場を設けるようにする。その際「国」「地方」「今では」のキーワードにあわせて、整理するワークシートを用意する。またこのシートには児童が各時間学習したことに対して「どんなことを感じたか」書く項目も設けた。シートにまとめることで、各歴史的な事象と地域・現在との関わりが可視化できるようになり、このシートをもとにすることで、児童は歴史的な事象を今後どのように生かしていくか考える手助けになると考えた。(資料3)

手だて⑤ 学習協力者の活用

八街市郷土資料館の協力をいただきながら、地域の歴史的事象を取り入れることで、歴史的な事象と現代の社会的な事象の関わりに気づくことができると考えた。

また、児童が歴史上の人物の行動や言動から今の自分と比較して、生き方や考え方にどのように反映させられるか考えさせるために、今を生きる人の思いや考えが伝わる資料が必要であると考えた。児童は手だて②から今と昔の関連に気づく素地が養われており、本単元に関わりのある、現代を生きる東大寺や唐招提寺の方へ直接取材を行った生の声を活用した資料は、児童に大きな影響を与えることが期待できると考えた。 **(資料3)**

7. 手立ての有効性

手だて① 地域の歴史的な事象を補完的に取り入れる

地域の歴史的な事象を補完的に取り入れた授業が進むにつれて、児童は国での出来事だけでなく、地域の歴史的な事象を基に歴史的な事象と今の社会的な事象に関わりがあることを理解できるようになってきた。単元全体のまとめシートにおいて、地方では「国分寺が千葉にも建てられている。」「税は地方でも収めていた。」「重い税に苦しんでいた」と書かれていた。事後アンケートにおいても児童の意識として、「とても身近に感じる」・「身近に感じる」で合計81%をこえており、歴史的な事象と自分たちの生活の関わりに気がつかせることに有効であったことが明らかになった。 **(資料4)**

手だて② 地域素材の開発を行う

八街市郷土資料館の方の協力のもと、山邊郡印を紹介した際には、印を紙にたくさん押しつけて偽造を防ぐことや、郡印の出土が八街ということから、地方(八街)が律令と関わっていることをおさえることができていた。児童においても感想に挙げる児童もおり、自分たちの地域にも律令の影響があったことを感じる事ができていた。



手だて③ 毎時間の終末で自分たちとの生活の関わりを考えさせる

児童は学習のまとめにおいて「国では」「地方では」「今では～に繋がっている。」の3つの言葉を用いてまとめさせるように取り組んだ。単元が進むにつれて段階を追って自分自身でまとめられるようにしていくことができた。 **(資料4)**

【A校 児童Aのまとめ】

天皇中心の国づくりを目指した。
そして、様々な方法で豪族の力をおさえようとした。



国では、税の仕組みが整えられた。
地方でも、律令の影響を受けた。
現代の税金とは少しづつがうが、この時代から税が始まった。

【B校 児童Aのまとめ】

聖徳太子は、様々な方法で豪族をまとめあげた。



国では律令が定められ、仕組みが整えられた。地方でも影響を受けていた。今でも印鑑や税など生活に関わっている。

手だて④ 単元の最後で『まとめシート』を活用する

学習課題	時数	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	まとめ
聖徳太子の死後、どんな国づくりが行われたのだろうか。私たちの生活に(今の政治に)どのように活かされているのだろうか。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。

国では	大仏をつくる詔。行基は大仏づくりに協力。
地方では	材料を送った。手伝いをした。
今では	大仏は今も残っている。
どんなことを感じたか	よく大仏はそのまま残っていたなと思った。

【A校 児童Bのまとめシート】

学習のまとめにおいて、全時間の授業で得た知識や情報をまとめる際に国・地方・今ではのキーワードにあわせて、整理するワークシートを使用した。多くの児童がこの歴史的な事象と地域や現在の関わりを結びつけながらどんなことを感じたか、書くことができていた。

スロー学習課題	時数	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	まとめ
さだされようか。聖徳太子の死後、私たちの生活にどのような国づくりが行われたのだろうか。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。
		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。		大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。	大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。大化の改新(大化の改新)の丹波地震も述べた。

国では	大仏づくりのため行基や渡来人の力を借りた。
地方では	材料を運んだ。
今では	東大寺では祈りが捧げられている。
どんなことを感じたか	大仏づくりは大勢の人たちと協力していたんだなあ。それにしても聖武天皇の人望がすごいと思った。

【B校 児童Bのまとめシート】

手だて⑤ 学習協力者の活用

第4時の授業について、聖武天皇の時代の災害について、郷土資料館の方や図書館の方と連携を図り、「日本歴史災害事典」を紹介していただいた。災害事典をもとに作成した年表に対して、災害の多さからこの時代の大変さを感じ取った児童や自分なら違う方法をとるといった児童など様々な考えを述べていた。

第5時・第6時に東大寺・唐招提寺の方から児童の質問に対して回答をしていただいた。児童も質問に答えてもらった事実や、現代にも繋がる仏教と生活の関わりに驚き、感想をたくさん書くことができた。

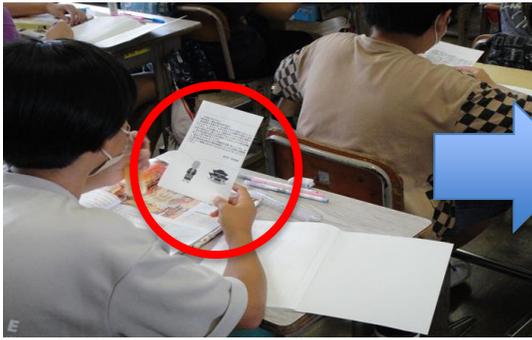
聖武天皇が生きた時代の災害

西暦	聖武天皇が生きた時代の災害
701	丹後地震、四国から関東にかけての風水害
706	慶雨飢饉、疫病の流行
709	和銅長雨
710	霖雨、凶作
711	千越・凶作
715	遠江地震、翌日に三河地震
734	天平大地震
737	天然痘の流行
745	美濃大地震、近江の都周辺で山火事発生

【読み方・意味】
 霖雨 りんう 何日も降り続く雨
 旱魃(干ばつ) 雨の少なく水不足の状況。
 ※『日本歴史災害事典』をもとに作成

聖武天皇は、大仏をつく。たけ
 じ、私だったら、災害おきても
 大丈夫なように、町を強化・整
 備する

運か好すまで、神にいのちの
 か同じでした。



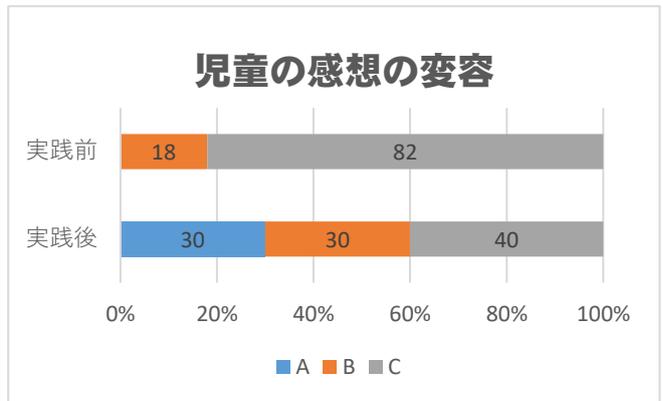
鑑真がきてくれたことで、正
しい仏教が伝わったんだと
思った。

8. 仮説の検証

検証方法については児童の書いた感想・まとめシートの内容をもとに分析し以下の基準をもとに、グラフ化し考察した。

【①感想について】

感想に関する内容について	
A	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる〈人・もの・ことがら〉が自分たちの現代生活との関連していることに気づくことができた。 上記のものと下記の中から1つ書けている。 過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連の考察をすることができた。 歴史から学んだことをどのように生かしていく構想することができた。
B	<ul style="list-style-type: none"> 下記のものが1つだけ書けている 歴史に関わる〈人・もの・ことがら〉が自分たちの現代生活との関連していることに気づくことができた。 過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連の考察をすることができた。 歴史から学んだことをどのように生かしていく構想することができた。
C	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象を知ることができた。



【A校 児童Cのノート】

この時代から税が始まり、たことが
分かった。

A校児童Cについて、単元始めは歴史的事象についてのみ書いていたが、学習のまとめ時には、昔と今の繋がりについて気づいて書かれている。

【B校 児童Cのノート】

政治のしくみや年号が昔の人な
昔からあったんだって... (はたまた
昔かと思、た...

B校児童Cについては、単元を終え現代の生活と関連していることを書き、さらに学んだ人物から生活に生かそうとする思いが書かれている。

天皇中心の国
づくりを学んで
何千年も前の年号
や仏教、税など
は昔と受けつが
れてきていてす
いなと思った。
歴史は変わって
るけどみんなは写
らないのをわか
って人々を...

天皇中心の国づくりを勉強し
て、今とつながるものがある。た
り、つらい思いをしたのにそれ
をのりこえた人物がいて、昔の
人物のように私もたのもしいな
人になりたい！と思った。

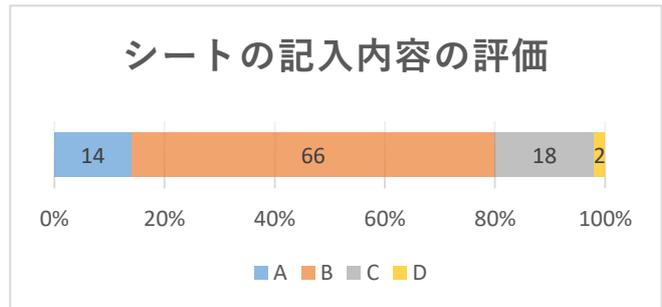
鑑真が来ると入りの
たのしみ

児童の書いた感想について学習のはじめは、歴史的事象について感想を書く児童が多かった。学習が進むと現在の生活との関わりを書く児童が見られるようになった。

単元末の学習全体の振り返りでは、歴史に関わることと、自分たちの現代生活との関連していることや過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連の考察を書けるようになってきた。しかし、グラフからわかるように、Aが30%と数値としては増えたが、まだ、難しく感じている児童が40%いることは課題である。

【②シートの内容について】

	シートに書かれている内容について
A	歴史的事象について今後どのように生かしていくか、児童自身が考えを書くことができている。
B	歴史的事象について自分の考えを入れて書くことができた。
C	歴史的事象について書くことができた。
D	歴史的事象についてふれていない。



これまでの学習において、地域の歴史的事象や教材を入れることで、児童は身近に感じることができた。そのため、多くの児童がシートにまとめる際に、歴史的事象に対して自分たちの気持ちや思いをまとめるようにしていた。

【評価基準 A】

歴史的事象について今後どのように生かしていくか、児童自身が考えを書くことができている。

歴史は、いつか自分のために、全体につながることを分かった。

人々が協力して大仏づくりをしていた。協力することは今も未来も大切なこと。

【評価基準 B】

歴史的事象について自分の考えを入れて書くことができた。

自分の生きている時間を人のためについやすのはとてもすごいと感じました。

行基や渡来人の力を借りたので、当時の人々は、行基たちに感謝していたと思う。

【評価基準 C】

歴史的事象について書くことができた。

この時代に仏教が広められたことがあった。

元号はすごく長く続いているんだなと思った。

【評価基準 D】

歴史的事象について触れていない。

そのなすじは思いました。

Aの基準である「歴史的事象について今後どのように生かすかについて」・Bの基準「歴史的事象について自分の考えを入れる」の2つの評価基準について書くことができた要因は、現代を生きる人の思いに触れる資料が大きいのではと考える。この単元の5・6時に東大寺や唐招提寺の方へ取材した資料を活用した結果、多くの児童はその資料をもとに行

基や鑑真の取り組みについて感想や児童の考えが書かれていた。

しかし、この思いに触れる資料を提示するだけでは、児童は十分に書くことはできなかつたのではないかと考える。やはり、毎時間地域の歴史的事象を補完したことやまとめにおいて、「国」「地方」「今では」を意識したことで、児童自身が普段から今と昔の関連を考えながら授業に臨む素地をつくることができたことが大きいのではないかと考える。実際感想やシートの変容が見られ、授業の前後でとったアンケートの「なぜ歴史を学びますか」「古くからつたわるものは何ですか」についての変容は顕著であり（資料4）、児童が様々な思いや内容を自分の言葉で書いており、様々な語句や思いが増えていることから、児童の歴史に対する意識の変化がうかがえる。しかし、Aの基準については14%となっていた。前任校の実践に比べ3倍近くに増えたもののさらに増やしていくには、さらなる手立ての検証が必要であると考えた。

最終的には、到達させたいと考えていた国家及び社会の発展を考えさせることについては、「なぜ、歴史を学ぶのですか」の問いに対して、児童の中から「どんな社会にしたいのか考える」「今の社会につなげていくため」など、歴史から学んだことを自分たちの社会に生かそうとする意欲は見受けられた。（資料4）もっと具体的にどんな社会にしていきたいのかを見出すためには、一単元だけでなく、今後も継続的に問う必要性を感じた。

9. 成果と課題

（成果）

- 学習のまとめから児童は歴史的事象と地域の歴的事象から歴史と現代の繋がりについて考えることができた。
- 児童の感想やシートから歴史を学ぶ意味を考えられるようになってきた様子がうかがえる。シートについて授業者からも教材研究などで活用した際に非常に効果的であり、今後の単元においても生かせそうであるという意見があった。
- 地域の教材や学習協力者の活用は児童にとってとてもいい刺激になった。特に唐招提寺や東大寺の方の言葉は児童がどのように歴史的事象を生かすか考えるもとになっていた。

（課題）

- ▲地域素材の開発において千葉県と八街市について取り入れたが、八街市に比べ千葉県となると歴史的事象と自分たちとの生活の関わりについて深く考えることが難しい児童がいた。
- ▲「国」「地方」「今では」を取り入れてまとめをしたが、児童にとっては難しいと感じている様子もうかがえた。協同学習を取り入れるなど、工夫していきたい。
- ▲児童によってはまとめ方が難しいとしており、各児童の実態に合わせた話型の改良などさらに手立てを工夫するが必要である。
- ▲「どのような社会・国にしていきたいか」など国家・社会の発展を考えるまでには、課題が見られた。一単元で育てるには難しいため、年間を通して力を育てていきたい。
- ▲感想の内容について変容が見られた。実践後は「歴史的事象を知ることができた」のみ書いていた児童が、実践前に比べ半分となった。

しかし、その割合を減らしていくためには、今後もこの手立てを継続しつつ、さらなる有効な手立てについても見出していきたい。